

校内研修計画

甲州市立塩山北小学校

1 学校課題

塩山北小学校は、塩の山の東に位置し、塩山温泉や向嶽寺など古くから文化的に栄えてきた地域にある。地域や家庭の学校教育への関心は高く、そのことは様々な行事への関わりからも実感することができる。しかし、一人一人の子供たちが置かれている状況は多様であり、学校課題として対応していく必要性を感じている。

令和元年度の全国学力学習調査の結果分析では、与えられた情報から関係を捉えたり、その理由を書いたりすることに課題が見られた。このことから、判断の根拠や理由を明確にさせながら、自分の考えや思いを表現することに継続して取り組む必要があげられる。これまでの研究や取組を受け、子供たちが主体的に考え、根拠を明確にしながらか自己表現していくために、さらに研究を深めていきたいと考える。

家庭学習においては、自主的に取り組むことが身につけている児童がいる反面、身につくまでに至らない児童もいる。また、学年が上がるにつれ、取り組む内容や方法など個人差が大きくなる傾向がある。個に応じながらも継続して学校全体で取り組むことが必要である。

2 研究主題

「主体的に学び、考える児童の育成」
～ICT機器を活用した学び合う授業づくり～

3 主題設定の理由

(1) 社会的な課題について

学習指導要領（平成29年3月告示）第1章総則の第2「教育課程の編成」では、「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」として、「(1)各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」を掲げている。さらに、「何を学ぶか」といった学習内容だけでなく「何ができるようになるか」といった資質・能力を基に内容が構成され、その定着のため「主体的・対話的・深い学び」の実現が掲げられている。

令和2年度山梨県学校教育指導重点においては、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を各教科で明確にし、言語活動の充実やICTの活用を進めながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが記されている。

子供たちを取り巻く社会はめまぐるしく変化しており、情報化やグローバル化など急激な変化の中にあっても、未来の担い手となる子供たちには、そのために必要な資質・能力を確実に身に付けることが望まれる。先述した学校課題やこれらの社会的課題に鑑みて本研究主題を設定した。

(2) 学校教育目標の具現化から

学校教育目標『心豊かで生きる力のある子ども』が目指す児童の姿は、「思いやりのある心豊かな子ども」「自分で考え主体的に判断して行動できる子ども」「体をきたえ、生命を大切にする子ども」である。学校生活の中で大半を占める授業での時間を通して、子供たちが主体的に学ぶ姿勢を身に付け、多様な人との対話を通じて考えを広げることで、学校生活全体での主体性や思いやりにつながり、学校教育目標の目指す児童像に近づくものであると考える。

(3) これまでの研究から

令和元年度は2か年計画で国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の委託研究の協力校指定を受け、

こ

れまでの集団づくりや学習環境の整備を継続しながら、ICT機器を活用した授業づくりについての研究を進めてきた。また、遠隔協調学習システムを活用して新潟県妙高市斐太北小との交流学习を行い、新たな学習の方法を探ることができた。一方で、ICT機器を用いること自体が目的とならないよう、授業での必要性や機器の選択、授業の効果についてはさらに検証する必要がある。これまでの集団づくりや学習環境の改善を継続しながら、さらにICT機器を活用して「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を図り、資質・能力の向

上を目指していけるよう授業の工夫・改善をしていきたい。

4 研究の内容

(1) 具体的内容

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業づくりと ICT 機器の活用について（理論研究）
- ・ICT 機器（タブレット）活用のための学習会
- ・ICT 機器を活用した授業研究
- ・Q-Uアンケートの実施2回と K-13法による分析
- ・家庭学習と授業を有機的に結び付ける取組

(2) 研究の方法

- ・講師を招聘しての学習会
- ・授業研究会及びワークショップ型の研究会
- ・一人一実践
- ・「北小スタンダード」の継続した取組
- ・Q-Uアンケート結果を分析し、アタックシートを活用した学級集団づくり
- ・「家庭学習の手引き」「家庭教育・子育てQ&A」を活用した効果的な家庭学習の提案

年間校内研修計画

	研究テーマ	担当	回	授業の時期	TC 要請(○)
主体的に学び、考える児童の育成	昨年度研究について・本年度研究の方向性と概要	研究主任	1		
	本年度校内研究の計画と研究の組織づくり(部会研究について)	研究主任	2		
	edutab 講習会	研究副主任	3	5月	
	学習会	研究主任	4	5月	○
	部会研究	部会長	5		
	部会研究についての提案・部会研究	部会長	6		
	部会研究(または Q-U 結果分析・アタックシートづくり)	部会長・各学年	7		
	部会研究	部会長	8		
	特別支援教育研修会・教育課程環流報告会	各担当 <small>特別支援コーディネーター</small>	9	8月	
	部会研究	部会長	10		
	授業案の検討	6年	11		
	部会研究	部会長	12		
	授業案の検討	6年	13		
	授業提案・研究会	6年	14	10月	○
	部会研究(または Q-U 結果分析・アタックシートづくり)	部会長・各学年	15		
	本年度研究のまとめ・部会研究のまとめ	研究主任・部会長	16		
	本年度研究の成果と課題	研究主任	17		
	研究紀要作成	研究主任	18		
	来年度の研究に向けて	研究主任	19		

*斐太北小との遠隔協調学習についてはその都度協議して決める。